



工学部広報2009年10月号(学内教職員用)

<a href="#">一広報トップ</a>
<a href="#">今月のトピックス</a>
<a href="#">学部内会議議事録(9月分)</a>
<a href="#">全学会議議事録(9月分)</a>
<a href="#">工学部の各種データ</a>
<a href="#">11月・12月の行事予定</a>
<a href="#">各種委員会からのお知らせ</a>
<a href="#">国際交流関係トピックス</a>
<a href="#">科学研究費補助金 基盤研究「アンコール遺跡における環境汚染と環境破壊の現状と評価」海外学術研究報告会 開催予告 (H21.10.31)</a>
<a href="#">受賞報告</a>
<a href="#">金沢で開催の学会行事</a>
<a href="#">お知らせ</a>

科学研究費補助金 基盤研究  
 「アンコール遺跡における環境汚染と環境破壊の現状と評価」  
 海外学術研究報告会 開催予告(H21.10.31)

**科学研究費補助金 基盤研究**  
**「アンコール遺跡における環境汚染と環境破壊の現状と評価」**  
**海外学術研究報告会 開催予告**

**研究課題** 「アンコール遺跡における環境汚染と環境破壊の現状と評価」  
 外務省日メコン2009交流年イベント

**研究代表者** 環日本海域環境研究センター 塚脇 真二准教授

**日時** 2009年10月31日, 13:30~16:00

**場所** 日本大学文理学部図書館オーバルホール

**主催** アンコール遺跡自然環境学術調査隊(チームERDAC)

**共催** 日本大学文理学部, アンコール遺跡整備公団, UNESCOプノンペン事務所

**内容** 世界遺産の白眉として名高いアンコール遺跡群だが、観光産業の爆発的な発展のため、自然環境の悪化には目を覆いたくなるものがある。今月初めにもシェムリアプ市がこれまでになかったような洪水に見舞われた。この遠因として自然環境や都市環境の全般的な劣化があると捉えている。このような環境汚染や破壊の現状を早急に把握し、対処法を考えるため、アンコール遺跡整備機構とともに2005年6月から2009年3月まで、環日本海域環境研究センター 塚脇 真二准教授が研究代表者となって科学研究費補助金などによる学術調査を実施した。この成果は2009年3月にシェムリアプにて国際シンポジウムとして公表したが、その概要を日本のみなさまにもお知らせしたく、報告会の開催を企画した。それぞれの研究グループの代表者が各分野での成果をかいつまんで報告する予定である。

■大気環境分野

- ・シェムリアプ市ならびにアンコール遺跡公園における大気汚染
- ・プノンペン市における大気汚染と夜間温度分布



- 水環境分野
  - ・シェムリアプ市における気象特性と観測ネットワーク構想
  - ・シェムリアプ川における水質の年間変動
  - ・アンコール遺跡区域における水の濁りと植物プランクトン
- 水資源分野
  - ・アンコール遺跡公園における水資源管理



プログラム

■ 森林環境分野

- ・プラカーン遺跡に残された巨木林の再調査
- ・プラカーン遺跡巨木林の現状とエコマネージメント
- ・プラカーン遺跡巨木林の森林生態評価

■ 地盤/河川環境分野

- ・アンコールワット環壕における魚類相
- ・シェムリアプ川の河川変動
- ・アンコール遺跡区域における地盤強度
- ・カンボジアにおける伝統的ホームガーデン



[ページの先頭へ](#)

Copyright © 2009 Faculty of Engineering Kanazawa University. All Rights Reserved.